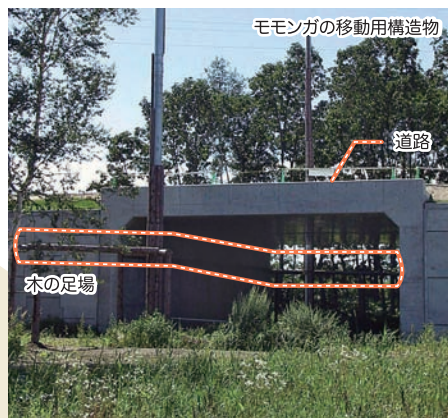


# 十勝の人と エゾモモンガとエゾリス

エゾモモンガもエゾリスも私たちの身近にいる動物です。帯広市では市街地の緑地や公園など、多くの場所に生息しています。モモンガは夜行性の動物なので、人との直接的な関わりが少なく、身近なところにもあまり存在を知られていません。そのため、いつのまにか道路の建設などのためにモモンガが暮らしている林が分断されて、自由に移動ができなくなってしまうことがあります。帯広市やその周辺には、モモンガの移動を助ける「モモンガの橋」などの構造物がいくつか造られています。



道路を造るために分断された森林

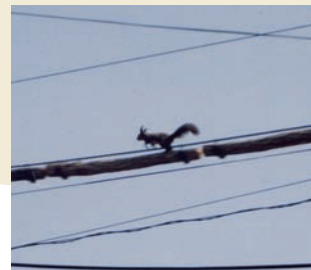


木の足場を利用するモモンガ

一方、エゾリスは地面を移動することができます。そのため、林や森林が分断されても移動は可能です。しかし、市街地の小さな公園や緑地は交通量の多い道路で囲まれているため、エゾリスの交通事故がひんぱんに起こっています。帯広畜産大学で過去に調べた結果、2年間で80匹以上のエゾリスが交通事故で死亡していました。

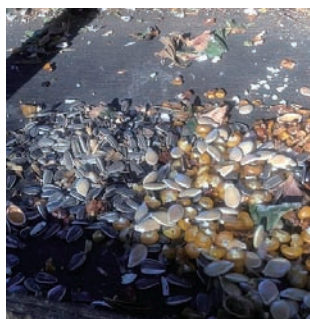


「リス注意!」の交通標識



エコ・ブリッジを渡るエゾリス  
(写真提供: 帯広市)

帯広市ではエゾリスの交通事故を少しでも減らすために、いくつかの工夫が行われています。「リス(飛び出し)注意!」の標識の設置や、道路の上を安全に渡ることのできるエコ・ブリッジです。



えさ台に置かれたヒマワリの種など



手を出すと乗ってくる公園のリス

町中では多くの人がエゾリスにえさを与えています。人が与える食べ物はリスにとって簡単に手に入るえさですが、人に対する警戒心をなくさせ、リス本来の性質を失わせてしまいます。エゾリスは本来、人から独立して生活している野生の動物です。身近な彼らと上手に付き合うために、えさを与えることが本当に良いことなのかを考えていく必要があるでしょう。

## —写真・資料・文章の提供—

柳川 久・浅利裕伸・山口裕司・鈴木 圭・寫本 樹・  
大熊 勲・濱田瑞穂(帯広畜産大学)、内田健太(北海道大学)、  
おびひろ動物園、帯広市

※本冊子は「農業共生圏高度専門化育成事業」の一環として作成されています。



十勝の動物を知ろう

## エゾモモンガと エゾリス



国立大学法人  
帯広畜産大学

協力: おびひろ動物園



## 日本のリスの仲間

エゾモモンガもエゾリスもリスの仲間です。日本にはリスの仲間が6種類います。そのうち北海道にはエゾモモンガ、エゾリス、エゾシマリスの3種類が生息しています。



エゾモモンガ



エゾリス



エゾシマリス



ムササビ



ニホンモモンガ



ニホンリス



クハリハリス

本州から南には、ムササビ、ニホンモモンガ、ニホンリスの3種類が生息しています。外来種（外国から人によって持ち込まれた種類）のクハリハリス（タイワンリス）の仲間もいます。

## エゾモモンガとエゾリスのくらし

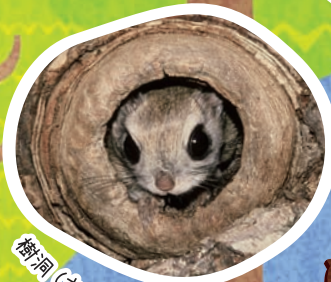
一生を通じて、ほとんど木から降りません



葉や芽が主なえさです



木から木へ滑空します



樹洞（木のうろ）に住みます

エゾモモンガは  
夜行性です



木の上で、春～夏にかけて行います



木の枝などで、皿状や球状の巣を作ります

主なえさはクルミやマツの実などの種子です



エゾモモンガが滑空する軌道

地面でもえさを食べたり、貯食（埋めたり）します



エゾリスは  
昼行性です